

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【馬宮中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	次年度以降も引き続き授業内で復習や反復学習の時間をとり、定着を図ること、計画的に学習を行う学習習慣の確立を図る。さらには、個別に支援が必要な生徒への手立てを考えていきたい。
思考・判断・表現	ICT活用が充実した一方で、自分の考えを言葉で表現するような学習活動に課題が見られる。各教科の授業の中で、自分の考えを根拠を明確にして説明する活動を多く取り入れていく。また、他者と関わったり、教え合ったりする中で「思考・判断・表現」を高めていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	次年度以降も、「各教科の勉強が好きですか。」の質問項目において、肯定的な回答が75%以上になるように、「わかった」「できた」という体験をする場面が増えるよう、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の研究を進めていく。

① 目標・策			
目標		策	
知識・技能	「知識・技能」を図る5科の自校テストにおいて、年間で平均点75点以上を維持する。	⇒	授業の冒頭に、漢字や基本的な計算等の反復学習を行う時間を確保し、「知識・技能」の定着を図る。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の「ICTを活用した学び」における「コンピュータを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめたりする学習をすることができましたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒	「ミライシード」や「Teams」等を活用し、教師と生徒や生徒同士の思考の共有化を図る。各教科の授業において、効果的にICT機器を活用する方法を研究し、校内研修等で教師間で共有していく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の「学びに向かう力等」における「各教科の勉強は好きですか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を70%以上にする。	⇒	各教科の授業において、生徒に「分かった」「できた」という体験をする場面を多く設定し、学習意欲を高める。また、授業中に必ず学習のまとめや振り返りを行う時間を設定する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	「知識・技能」を図る5科の自校テストにおいて、目標は3割程度しか達成できなかった。授業の中で、漢字や基本的な計算等の反復学習を行う時間の確保が難しいときがあった。	C
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の「コンピュータを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめたりする学習をすることができましたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が全年学93%であった。また、各教科等の授業の中での活用やICT活用研修をすることができた。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の「各教科の勉強は好きですか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が72%だった。各教科に対して好意的に思っているが、「わかった」「できた」という体験場面が少なく、学習の定着に結びついていなかった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の評価の観点「知識・技能」の問題形式「選択式」において、全国の正答率と比較し自校の正答率が上回る部分が見られた。特に国語の言葉の特徴や使い方に関する問題や数学の図形と関数の問題に成果が見られた。しかし、問題形式の「記述式」等においては、全国の正答率を下回る部分が見られた。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の評価の観点「思考・判断・表現」の問題形式「選択式」において、全国の正答率と比較し自校の正答率が上回る部分が見られた。特に、国語の要旨を把握する問題において成果が見られた。しかし、問題形式の「記述式」等においては、全国の正答率を下回る部分が見られた。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」「授業で学んだことを、ほかの学習で生かす」の質問項目において、全国と比較し肯定的な回答の割合が上回った。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
目標		策	
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	各教科の授業において、自分の意見を根拠を明確にして伝えたり、生徒同士で教え合ったりする学びの場面を設定する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の「学びに向かう力等」における「各教科の勉強は好きですか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を75%以上にする。	⇒	各教科の授業において、生徒の興味関心を高めるような授業や生徒自身が学習課題の設定を考える授業を取り入れていく。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査の中学1年生と比較して、国語+13pt、数学+4ptであった。国語の我が国の言語文化に関する事項の問題は、市の平均を上回り、改善が見られた。自校テストでは、基礎的な内容でも正答率が低いものがあった。既習内容を確認する復習の時間を確保したり、反復学習を行ったりして、さらなる定着を図っていく。また、基本的な内容の理解を大切に、生徒が「知識・技能」を獲得していけるよう授業改善に努めていく。
中2	「思考・判断・表現」において、R4年度さいたま市学習状況調査の中学2年生と比較して、国語-4pt、数学-2ptであった。国語の内容の解釈に関する問題や数学の数学の関数に関する問題で無回答率が高かった。自分の考えを言葉で説明する活動を多く取り入れ、他者と関わり教え合う中で「思考・判断・表現」を高めていきたい。
中3	「各教科の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は68%であった。「わかった」「できた」という体験をする場面が少ないと考えられる。生徒の実態に応じて、主体的に授業に臨めるような学習課題を設定し、興味関心をもって学習に臨めるようにしていきたい。